

リニア中央新幹線東京・大阪間の早期全線開業に関する要望

～ 一日も早い全線開業の実現を目指して ～ 三重県商工会議所連合会

リニア中央新幹線建設促進三重県期成同盟会（会長：一見勝之三重県知事）は、三重県商工会議所連合会 種橋潤治会長（四日市商工会議所会頭）、岩佐憲治副会長（亀山商工会議所会頭）とともに、令和3年12月13日（月）、東海旅客鉄道株式会社（JR東海株）東京本社へ、リニア中央新幹線東京・大阪間の早期全線開業に向けた要望を行いました。

東海旅客鉄道株式会社（JR東海株）は、金子代表取締役社長、宇野代表取締役副社長、水野取締役専務執行役員中央新幹線推進本部長、澤田執行役員中央新幹線推進本部副本部長の4名に対応していただきました。

一見知事より要望書を説明すると共に、リニアのアセスの早期着手と一日も早い開業をお願いし、種橋会長からはJR四日市駅から四日市港への人の流れの仕掛けに関してや、岩佐副会長からは亀山駅前の再開発の状況や複線電化への協力など発言しました。

要望の概要は、以下の通り。

1. 一日も早い全線開業の実現に向け、まずは東京・名古屋間については、工事実施計画に基づき着実に事業を進め、早期整備を図ること。特に、未着工区間については、国、JR東海及び関係者による協議を迅速に進め、早期着手を図ること。また、名古屋・大阪間については、2045年から8年前倒しの2037年開業が確実なものとなるよう、工事の早期着工を図ること。
2. 名古屋・大阪間のルートは、南海トラフ地震などの災害リスクへの備えとするため、東海道新幹線のリダンダンシー機能を備えた三重・奈良・大阪ルートとし、県内の停車駅位置は、鉄道や高速道路によるアクセス利便性等を十分に勘案し、リニア中央新幹線の整備効果を県内全域に波及できる場所とすること。
3. 駅周辺の魅力あるまちづくりに向けた具体的な検討など、事業促進に向けた環境整備を着実に図ることができるよう、環境影響評価の手續に速やかに着手するなど三重県内の概略ルート及び駅位置の早期公表に向けた準備を連携、協力して進めること。
4. 技術開発等による大幅なコストダウンに努めるとともに、東京・名古屋間の工事等を検証し、今後の円滑な事業実施につながる事前の対策を講じるなど、一日も早い全線開業のための方策を引き続き検討すること。
5. リニア中央新幹線の推進にあたっては、東京・名古屋間の工事状況等を踏まえながら、沿線地域として円滑な環境影響評価等の実施に役立つよう、引き続き関係者による意見交換等の機会を定期的に設けるなど、緊密な協力関係の構築に努めること。



▲ 左から種橋会長、一見知事、金子社長、岩佐副会長